

## 福の神、身振り手振りで笑い誘う

カセダウイ

五穀豊穡と無病息災を願う正月の伝統行事カセダウイが1月14日、沖水、志和池、山田地区で行われました。丸谷町薄谷地区では、地元の人たちが顔をまっ黒に塗りみのをまとった福の神に扮し、地区内の家々を訪問。飲食の接待を受けながら、竹製のプラントーや洗剤などの家庭用品を高値で売ろうと、商談を身振り手振りでユーモラスに繰り広げました。帰り際には、家人から田の水が枯れないようにとの願いを込めてバケツで水を掛けられ、居合わせた人たちの笑いを誘っていました。



## 寒風の中、都城路で競い合う

成人記念ロードレース大会

市内の新成人を祝う記念のロードレース大会が1月19日、都城運動公園陸上競技場を発着とするコースで行われました。年代や性別で分かれた2キロから5キロの21部門に、473人の市民ランナーが出場。選手らは、沿道に詰め掛けた家族や友人などの声援を背に、初春の都城路で健脚を競い合いました。小学4年生男子2キロの部で優勝した西優斗くん（安久小4年）は「1位になれてうれしい。走ることは楽しくてわくわくするので、これからも陸上を頑張りたい」と笑顔で話していました。



## 地区のことは私たちに任せて

子どもまちづくり協議会設立

子どもの視点から事業の提案をしたり、意見を述べたりする妻ヶ丘地区子どもまちづくり協議会設立会議が1月19日、妻ヶ丘地区公民館で開催されました。地区内の各小・中学校、高校の代表者15人に委嘱状を交付。まち協の役割や開催するイベントなどについての説明の後、子どもたちがまちづくりへの思いについて意見を発表しました。廣池智景さん（東小5年）は「交通マナーを守らない人がいるので、道路標識などを設置してほしい」と危険箇所への要望を述べていました。



## 健脚競い、記録に挑戦！

高崎クロスカントリー大会

起伏に富んだコースで競う高崎クロスカントリー大会が1月26日、高崎総合公園多目的広場で開催されました。市内外から健脚自慢の約300人が参加。親子の部や学年ごとに設けられた1キロから3キロの部、スパーハードの部に分かれ、健脚を競う選手らに、詰めかけた友人や家族らから熱い声援が送られていました。親子の部に出場した村橋那由太くん（6歳）は「昨年に続き今年も優勝できてうれしい。来年は小学生の部に出場して優勝を目指します」と、目を輝かせていました。



## 市民スポーツの中核施設が完成 高城運動公園クラブハウス開設

高城運動公園にクラブハウスが2月1日開設され、オープニングセレモニーが行われました。開設に当たり市長が「市の中核的な運動施設として、キャンプや合宿だけではなく、地域にも末永く愛される施設になることを期待します」とあいさつ。地域の代表者らも交え、テープカットなどが行われ、開設を祝いました。スポーツ活動の拠点となる同施設は、公園を管理する事務室のほか、筋力強化用のトレーニング室、研修用の会議室などを備え、市民の誰でも有料で利用できます。



## 世界の文化を都城で体験！ ワールド・フェスタ in みやこのじょう

ワールド・フェスタが2月1日、ウエルネス交流プラザで開催されました。地域住民と外国人が交流を通して、多文化共生への理解を深めてもらおうと都城国際交流協会が毎年開催。ステージでのスピーチ発表や歌とダンスの披露、遊びなどを通して異国の文化を学ぶ体験ブースなどに、家族連れら約1,400人が詰めかけました。イギリスのブリスで王冠作りに参加した松元優花さん(沖水小2年)は「王冠は本物も手作りと同じでした。作りながらワクワクしました」と目を輝かせていました。



## 災害時の役割と作業手順を確認 合同防災訓練

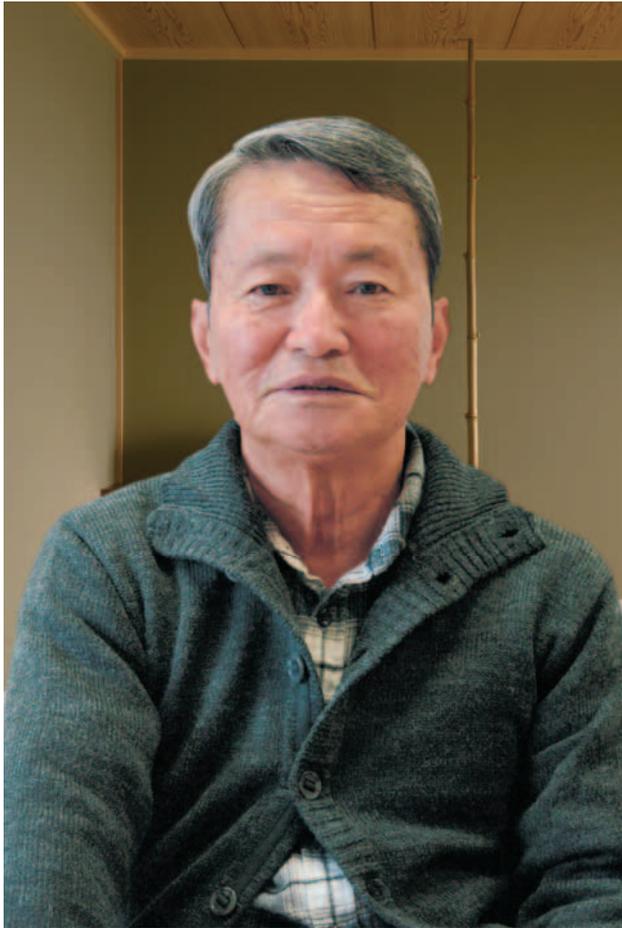
大雨や地震、火災などを想定した都城市合同防災訓練が2月2日、高崎福祉保健センターで開催されました。地元自治公民館の自主防災組織や消防団など約600人が参加。参加者らは、土のう積みやバケツリレーによる初期消火の手順を確認したり、AEDを使った応急救護を学んだりして防災意識を高めました。都城市郡医師会病院の竹松昇さん(荻原町)は「普段からの訓練が大切だと改めて感じました。また、他の機関との連携を確認できたので、有意義でした」と話していました。



## 勝利を目指し、たすきをつなぐ 南九州駅伝競走大会

南九州駅伝競走大会が2月2日、えびの市真幸地区体育館から都城市役所間の7区間、61・25キロの行程で開催されました。都城市内の6チームを含む46チームが出場。選手らは、沿道に詰めかけた家族やチームメイトからの熱い声援を受け、ゴールを目指して次の走者へとたすきをつないでいきました。友人の応援に駆け付けた高橋葵さん(宮崎市)は「友人に届くように大きな声で応援しました。最後まで頑張って走る姿に感動しました」と、選手らの走りたたえていました。





## 民俗芸能の継承で地域に貢献

くまそおどり  
熊襲踊保存会会長

おおかわら きみお  
大川原 紀美生 さん



日本の伝統芸能が一堂に会する「第14回地域伝統芸能まつり」(2月22日・23日開催、東京都)に出演した、県の無形民俗文化財に指定されている熊襲踊保存会。同会の会長を務めるのが、大川原紀美生さん(庄内町・68歳)です。熊襲踊は、庄内町に伝わる民俗芸能で、かつて南九州を支配していた熊襲族の長熊襲武(やまとたけるのみこと)も、討ち取られた熊襲族の霊を鎮める踊りともいわれています。

「子どもの頃、言うことを聞かないと熊襲が来るぞと、怒られていたのを覚えています」と、昔を懐かしむ大川原さん。しばらくは熊襲踊を写真に収めるなど記録に携わっていました。熊襲踊を踊り初めたのは40代の頃と、少し遅いスタートでした。「初めての舞台では、みんなと違う方向に回り、少し慌てたのを覚えています」と、初舞台には、少し苦い思い出があると話します。

地域で大切に受け継がれてきた熊襲踊。長男しか踊ることができなかった時代もありましたが、今では、地域の人なら誰でも踊ることができるようになりました。

「少子高齢化も進み、継承する難しさもありますが、現在は、父

から子へ、子から孫へと引き継がれています。また、地域の子どもたちと交流することで、まちづくりにもつながる」と地域貢献にも役立っていると話します。

今回、出演する「地域伝統芸能まつり」は、東日本大震災で被害を受けた地域が復興することへの願いが込められています。「被災地に行くことは難しい。代わりに、ステージから東北に元気を送りたい」と言ってくれた保存会のメンバーの思いやりの気持ちだが、うれしかったと話す大川原さん。「民俗芸能は、継承していくことで、人と人との絆を深めることができ、地域の宝物です」と思いを話していました。





今回は、小林市の「小林駅」と「西小林駅」を紹介します。

■地域の産業を支えた「小林駅」

小林駅は平成24年10月に100周年を迎えました。開業当時、駅を中心に商店や食堂などが軒を連ね、買い物客や観光客でにぎわっていました。駅周辺では、現在も名水夏まつりや土曜夜市、冬まつりなどを開催。市の中心地に位置する玄関口としての役割を果たしています。



小林駅では、開業100周年を記念し、食材から容器まで小林産を使った駅弁「いもとさるいこ」を販売。

※5個以上、2日前までの予約(くま扇 ☎0984-23-1847)が必要



■季節の花咲く「西小林駅」

西小林駅は、住民の積極的な誘致活動が実り、昭和4年に開業しました。駅は、多くの利用者でにぎわい、駅周辺にまちが形成されました。自家用車の普及により、昭和40年を境に利用者は減少し、現在は無人駅となっています。しかし、地元住民らにより、利用者をもてなすさまざまな取り組みが行われています。

ホーム横の花壇の四季折々の花もその一つ。昨年は地元住民らが植えた4千本のヒマワリが咲き、利用者の目を楽しませてくれました。また、駅

を菜の花で埋め尽くす「イエロップロジエクト」も実施中。昨年11月に種がまかれ、3月下旬には見ごろを迎えます。



◎問い合わせ

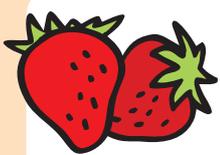
小林市市民協働課

☎0984-23-1148

※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています



盆地生まれの 元気 をいただきます



イチゴには、ビタミンCやポリフェノールなど健康と美容に良い成分が含まれます。なかでもビタミンCは、肌の張りを支えるコラーゲンの生成を助けます。



イチゴとヨーグルトのムース

※1人分 130kcal、塩分 0.2g

●材料 (カップ5~6個分)

イチゴ…150g プレーンヨーグルト…150g  
生クリーム…100g 砂糖…50g ゼラチン…10g  
お湯…50cc  
※飾り用 イチゴ…6個ぐらい ミントの葉など…6枚

●下準備

生クリーム…ホイップする  
ゼラチン…お湯を入れて溶かしておく

●作り方

- ①イチゴとプレーンヨーグルトをミキサーにかける  
※ミキサーがない時は、イチゴは細かくつぶしプレーンヨーグルトを入れて、泡だて器で混ぜる
- ②①にホイップした生クリームと溶かしたゼラチン、砂糖を入れて再びミキサーにかける
- ③カップに入れて冷蔵庫で冷やす



イチゴが残った時は、小さく切って砂糖を少しかけて冷凍しておく、ミキサーにかけやすくなります。



イチゴは、先端とヘタの部分で甘さが違うので、縦に切ると甘みが均等になります。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765